

☐生活支援☒見守り☐協議体

☒買物支援☐配達☐その他

☒移動支援☒居場所づくり

10「大川内地区ドライブサロン買物バス」で買物支援

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区は、人口635人、高齢化率57.95%（R5.8.1現在）で、車がないと生活も困難である。地区内には買物する場がなく、友人との行き来も減少して住民の孤立が危惧されていた。

取組のきっかけ

地区コミュニティ協議会のアンケート調査で、買物の場、憩いの場がほしいという要望が多かった。生活支援体制整備事業に取り組むに当たり、社会福祉法人から車の提供をしていただける地域資源があると判明し、この地区で買物バス運行を実施できるように、地区コミュニティ協議会を中心に第2層協議体が発足し、事業に取り組むことになった。

取組の目的

- 交通弱者への買物の支援
- 高齢者の一人世帯、高齢夫婦世帯の見守り活動
- 見守りをかねてのコミュニティづくり



大川内地区コミュニティ協議会ホームページ

これまでの経緯

年・月	出来事
平成29年12月	大川内地区で拠点・買物に関するアンケートを実施。買物の場、憩いの場の切望が判明。
平成30年6月	社会福祉法人から車の提供してもらい、買物バスとして生活支援体制整備事業ができないか構想。
平成30年8月	大川内地区コミュニティ協議会で事業を進めていくことを決定し、SCが地区内の65歳以上の一人暮らし及び高齢夫婦のみの世帯を対象に聞き取り調査を開始。
平成30年9月	大川内地区コミュニティ協議会健康づくり部会にて買物バス運行地域や方法など検討する。
平成30年11月	大川内・東出水地区高齢者生活支援体制整備推進協議会を発足。
平成30年11月	車両を提供する2社会福祉法人、社協、コミュニティ協議会、行政、SCで、薩摩川内市入来地区での買物支援事業を視察研修実施。
平成30年11月	出水市地域公共交通会議にて買物バス運行について周知、注意事項等を教授。
平成30年12月	関係機関参加で実施内容を検討し、ドライブサロンの要綱、送迎マニュアル、手引きをまとめる。
平成31年1月	買物バスドライブサロン試行運転、実施の修正を行う。
平成31年4月	大川内地区買物バス、ドライブサロン事業を本格運行。



活動の概要

出水市、社会福祉法人、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会が協働し、高齢者サロン活動の一環として買物支援を実施している。

地区コミュニティ協議会：事業主体として登録者の利用状況を管理、運営。
社会福祉法人：車両と運転手、スタッフを提供。
社協：高齢者サロンとして活動を支援、SCが同乗し、運営支援。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 2社から車両提供があり、各月1回ずつ。（第2、第3木曜）登録地域によって、コースがあり、降車は自宅前。ドライブ中の交流と目的地での買物支援を実施。
- 利用者数は、平均7人程度。
- 利用料金無料。

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、大川内地区コミュニティ協議会、社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会、自治会長、民生委員、在宅介護支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 2層協議体で今後の事業方針を説明
- 関係団体の連携
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 地域住民の聞き取り調査
- 社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会との連携
- 買物支援についての周知と協力者の募集



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

月に一度の買物バスを楽しみにしている利用者が多い。買物の利用以上に、参加者とのバスでの会話が一番の目的ととらえ、買物バスが地域の交流の場となっている。

〔課題〕

利用登録者数の維持。現在は車両の定員としてちょうどいいが、施設入居の為地域を離れる方もおり、利用者数が減少している。新規の利用者の方への声かけが必要。